

(ねらい) 水棲生物の採取・観察を通して、水温や水質とそこに住む生物種の対応を知ることができるようになる。



【講話1】イワナは水温の低い川の上流に住んでいる話。

【講話2】ヨシノボリの川の遡上の仕方についての話。



【観察できる水生生物】
トビケラ、カワゲラ、カゲロウなどの幼虫。

指導体制：指導者1名(全体への指示、指導、時間の計時)

指導助手4名(児童の安全確保、児童の質問に应对、指導者補助)に対し **対象人数**：30～35名

準備：たも網37本、イチゴパック15箱

留意点：水温が低いので、気温や天候を配慮して活動する。観察後、捕獲した生物は放流する。

プログラムの関連性：

小学校学習指導要領

理科、内容B生命・地球

3年(1)昆虫と植物 身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。

ア 昆虫の育ち方には一定の順序があり、成虫の体は頭、胸及び腹からできていること。

イ 植物の育ち方には一定の順序があり、その体は根、茎及び葉からできていること。

(2)身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。

イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。

5年(2)動物の誕生 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長についての考えをもつことができるようにする。

ア 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。

イ 魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること。

ウ 人は、母体内で成長して生まれること。

6年(3)生き物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。